

SUZUKA Sound of ENGINE 2019 ウェイン・レイニー26年ぶりに鈴鹿サーキットの走行が決定

株式会社モビリティランドは、鈴鹿サーキット(三重県鈴鹿市)にて、2019年11月16日(土)・17日(日)に「SUZUKA Sound of ENGINE 2019」を開催いたします。鈴鹿サーキットは、モータースポーツの歴史的価値を絶やすことなく維持し続けるために、歴史に加え、現代から未来にスポットライトを当て、本イベントを開催してまいります。

本イベントにおいて、ゲストとして来場するウェイン・レイニー氏の走行が決定しましたのでご案内いたします。レイニー氏は、1984年2輪の世界グランプリ(WGP)250ccクラスにケニー・ロバーツのチームからデビュー。1988年から最高峰クラス500ccクラスに参戦、1990年から3年連続チャンピオンを獲得し4連覇に挑戦している最中、1993年第12戦イタリアGP決勝レース中に転倒、頸椎損傷により下半身不随となりレーシングライダーから引退しました。今回の走行は、約26年ぶりとなる鈴鹿サーキットでの走行となります。



1988年鈴鹿8耐での走行シーン



車椅子でレース現場に復帰したレイニー氏

WGP US Legends -Wayne is Back-

ウェイン・レイニーが再びバイクに。1993年WGP日本グランプリ以来、26年ぶりに鈴鹿サーキットを駆け抜けます。なお、11月17日(日)は、青木拓磨さんもゲストとして登場し、走行します。※市販車両での走行となります

日時:

11月16日(土) 15:25-15:50

11月17日(日) 14:35-15:00

なお、鈴鹿サーキット公式ウェブサイト内、「SUZUKA Sound of ENGINE」ページにて、レイニー氏のコメント動画を公開予定です

ウェイン・レイニー

1977年にダートトラックでレースキャリアをスタートさせたウェイン・レイニー。1984年にロバーツからの誘いで世界グランプリの250ccクラスに参戦するが、その後AMAスーパーバイクに復帰、そこで1987年にHondaでチャンピオンを獲得。すると1988年からはチームロバーツの一員となり、世界グランプリの500ccクラスにフル参戦を開始する。

AMA時代からのライバル、SUZUKIのケビン・シュワーツとの戦いではいくつもの名勝負を残すが、先行逃げ切りの“レイニーパターン”は、この頃に確立された。また、どれだけ後続を引き離していてもまったくペースを落とさずに戦う姿勢は“ミスター100パーセント”とも呼ばれた。

1990年から1992年まで、世界グランプリの500ccクラスで3連覇を達成。V4が確実視された1993年、突然のアクシデントにより選手生活にピリオドを打った。

